様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号： １２６０３
研究種目： 基盤研究(C)（一般）
研究期間： 2015～2017
課題番号： １５Ｋ０２５０９

研究課題名（和文）ヌートカ語アハウザット方言の統合テキストデータベースの構築

研究課題名（英文）Construction of integrated text database of Nuuchahnulth, Ahousaht dialect

研究代表者
中山　久美子（Nakayama, Kumiko）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員

研究者番号：４０４０１４２６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、消滅の危機に瀕し研究実績も少ないアハウザット・ヌートカ語（カナダ、ブリティッシュ・コロンビア州）において、のべ3か月の現地調査を通じて、幅広い内容を網羅した自然な言語使用データ（テキストデータ）を収集・拡充するとともにその文法分析を行った。分析結果を加えたテキストデータを、音声データ、さらにテキストデータを基にした語彙データベースとリンクさせ、幅広い範囲の研究・社会活動に活用できる統合テキストデータベース構築の基盤を整えた。

研究成果の概要（英文）：In this study, fieldwork has been conducted on Ahousaht, an endangered and understudied Nuu-chah-nulth language, in the province of British Columbia, Canada, for the total period of three months. Based on the obtained naturally-occuring discourse data (textual data) whose contents include various types of ethnographical and historical information, grammatical patterns of the language have been analyzed. The analized textual data have been linked with audio and glossary data base and integrated into the computational infrastructure for use in variety of research and social activities.

研究分野： 言語学

キーワード： 危機少数言語　記述言語学　北米先住民語

１．研究開始当初の背景
(1) アハウザット･ヌートカ語は、カナダ、ブリティッシュ･コロンビア州南西部バンクーバー島西岸地域で話されている少数言語で、話者数は数十人ほどの高齢者に限られるという、典型的な｢危機言語｣である。
(2) ヌートカ語は、複統合性や品詞分類の不明瞭さなど、ヨーロッパやアジアの諸言語とは非常に異なる興味深い構造的特徴を持ち、その研究は単に個別言語の記述を越えた一般言語学的な意義を持つ。
(3) 研究代表者と研究分担者は、本研究前に 20 年以上にわたって、ヌートカ語の複数方言の調査および研究を進め、ヌートカ語諸方言の包括的文法記述･言語活動記録を長期的目標として、テキスト資料分析、文法記述などのプロジェクトを重ねてきた。

２．研究の目的
(1) アハウザット･ヌートカ語のテキストデータベースの拡充:
現地調査を通して、多様なジャンルの談話資料を収集し、既存のテキストデータベースの内容をより拡充させる。
(2) アハウザット･ヌートカ語の文法分析:
⑴ のテキストデータを、ヌートカ語の特徴である、複統合性、品詞分類など、類型的に稀有な構造を中心に、必要に応じて現地調査において母語話者の協力を仰ぎながら、その文法分析をすすめ、データベースに取り込む。
(3) アハウザット･ヌートカ語包括的データベースの構築:
(2)の分析で得られた形態素を収録した語彙データベースを構築し、テキストデータおよび補足情報･音声･画像とリンクさせ、包括的なデータベースを構築する。

３．研究の方法
(1) 現地調査：
研究期間の毎年度夏季に約１カ月の現地調査を行う。調査は、カナダ、ブリティッシュ・コロンビア州、バンクーバー島のポートアルバーニにて行う。現地調査においては、母語話者と面談を行い、録音・デジタル化された音声資料を聞いてもらい、その書き起こしおよび翻訳・文法分析に協力を得る。同時に、新たなテキストデータ（物語や会話などの自然発話）の収集・録音・録画、さらに、文化・社会的背景を調査・記録するためのインタビューを行う。
(2) 包括的データベースの構築：
テキスト資料、文法分析、音声データ、語彙データを相互リンクし、包括的データベースの構築を目指す。

４．研究成果
(1) 研究初年度の 20 日間（8 月 10 日～8 月 29 日）、第 2 年度目の 18 日間（8 月 12 日～8 月 29 日）、および第 3 年度目の 24 日間（7 月 25 日～8 月 17 日）にわたり、カナダ、ブリティッシュ・コロンビア州ポートアルバーニにて、現地調査を行った。現地では、母語話者との面談・インタビューを行った。面談では、すでに録音されているアハウザット・ヌートカ語の音声データの聞き取り、書き起こし、翻訳への協力を得た。同時に、関連する語彙や言語表現、談話などの新たなデータ収集も行った。これらのデータは、すべて IC レコーダー、また状況が許す限りビデオによって記録した。
(2) 文法分析を加えたテキストデータ、音声データ、語彙集をリンクさせ、包括的データベースの基盤を整えた。
(3) 本研究で分析･処理を行ったテキスト資料は、伝説、昔話、歴史的な出来事についての語り、伝統社会･文化･技術･生活様式･しきたりの説明など多岐にわたり、これをデータベース化することで、言語研究のみならず、伝統社会･生活、地域の歴史などに関する研究、および現地コミュニティーでの伝統言語･文化の再活性化など、広い範囲での研究･活動に活用されうる知的資源の蓄積という大きな成果をあげることができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）
① Toshihide Nakayama, “Documentary Linguistics Workshop：its beginning, development, and future.” In Asian and African Languages and Linguistics. 査読有、11 巻、2017、pp3-9.
② Toshihide Nakayama, “Polysynthesis in Nuuchahnulth, a Wakashan Language.”In The Oxford Handbook of Polysynthesis. 査読有、1 巻、2017、pp603-622.
③ 中山俊秀､「言語知識はどのような形をしているのか」日本認知言語学会論文集. 査読有、18 巻、2017.
④ 大野剛、中山俊秀、「文法システム再考：話しことばに基づく文法研究に向けて」話ことばへのアプローチ：創発的・学際的談話研究への新たなる挑戦. 査読有、1 巻、2017、pp5-34.

〔学会発表〕（計１９件）
① 中山俊秀. 「会話に見られる言語表現の文法的特異性」日本英語学会第 35 回大会. 2017.1118-19、東北大学
② 堀内ふみ野,中山俊秀. 「会話から見る文法体系の多重性：日本語の日常会話を例にして」第６回動的語用論研究会. 2017.10.1、京都工芸繊維大学
③ 中山俊秀. 「言語知識はどのような形をしているのか」日本認知言語学会第 18 回全国大会. 2017.9.16-17、大阪大学
④ Shoichi Iwasaki, Yoshiko Matsumoto,

Toshihide Nakayama. "Multiplicity in grammar: Modes, genres and speaker's knowledge." 15th International Pragmatics Conference, 2017.7.21. Belfast, Northern Ireland.

⑤ Fumino Horiuchi, Toshihide Nakayama. "Systematicity in variation within a grammar: A look into 'broken' structure and 'deviant' semantics in Japanese conversation." 15th International Pragmatics Conference, 2017.7.21. Belfast, Northern Ireland.

⑥ Toshihide Nakayama. "Fluctuating robustness of nominal phrases in Nuuchahnulth." 15th International Pragmatics Conference, 2017.7.20. Belfast, Northern Ireland.

⑦ Toshihide Nakayama. "On the Question of Universality of Lexical Categories: What Nuuchahnulth (Nootka) Can Tell Us." Special Seminar, 2017.3.22. Nanyang Technological University, Thailand.

⑧ Toshihide Nakayama. "Working with Conversational Data." Special lecture, 2017.3.15. Mahidol University, Thailand.

⑨ Toshihide Nakayama. "Introduction to Language Documentation and Revitalization." Special Lecture, 2017.3.15. Mahidol University, Thailand.

⑩ 中山俊秀.「言語使用を基盤とした文法とその研究の方向性と可能性を考える」第56回ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション研究会、2017.2.3. 国立情報学研究所

⑪ Toshihide Nakayama. "Rethinking Grammar: Multipicity in Grammar." Invited Lecture, 2016.11.17. Mahidol Univerisity, Thailand.

⑫ Toshihide Nakayama. "Rethinking Linguisstic Communication and Grammar." Invited Lecture, 2016.11.16. Mahidol University, Thailand.

⑬ Toshihide Nakayama. "Emergent Units in Speaking for Interacting." International Symposium on the Emergence of Units in Social Interaction, 2016.8.3-6. University of Helsinki, Finland.

⑭ 中山俊秀. 「話しことばが新たに拓く文法研究を考える」ことば・認知・インタラクション4、2016.3.25. 東京工科大学

⑮ Toshihide Nakayama. "Noun Phrases in Discourse: Why and How might They be Interesting." International Symposium on the Noun Phrase as Units of Linguistic Structure and Interaction, 2016.3.12. 慶応義塾大学

⑯ Toshihide Nakayama. "Noun Phrases in Nuuchahnulth: Their Place in Grammar and Discourse." International Symposium on the Noun Phrase as Units of Linguistic Structure and Interaction, 2016,3,12. 慶応義塾大学

⑰ 中山俊秀. 「複雑系としての言語の特性」情報資源利用研究センターワークショップ、2016.3.4. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

⑱ 中山俊秀. 「データと理論：データあっての理論か、理論あってのデータか」フィールドサイエンスコロキアム、2015.12.26. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

⑲ Tsuyoshi Ono, Toshihide Nakayama, Ryoko Suzuki, "Fixedness and unithood in Miyako and Japanese conversation: an Exploration into the emergence of structure and interaction." 14tu International Pragmatics Conference, 2015.7.26-31, University of Antwerp.

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
中山　久美子（Nakayama Kumiko）
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員
研究者番号：40401426

(2)研究分担者

中山　俊秀（Nakayama Toshihide）
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文
化研究所・教授
研究者番号：70334448

(3)連携研究者
(　　　)

研究者番号：

(4)研究協力者
(　　　)